

開催報告 分科会

2009年度第2回クリティカルパス実践セミナー in 滋賀

大津赤十字病院事務部副部長 荒堀光信



会場風景

北は青森から南は鹿児島まで、全国から77名が参加しました。「クリティカルパス実践セミナー in 滋賀」は2010年2月13日(土)、14日(日)の両日、滋賀県大津市の大津赤十字病院で開催されました。

日本医療マネジメント学会から垣田清人理事、開催病院から廣瀬邦彦院長、加えて、来年京都で開催される、第13回日本医療マネジメント学会学術総会会長、市立福知山市民病院院長 香川恵造先生から挨拶がありました。

第1日目は国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川哲志先生の講演「クリティカルパスの基本と作成」とグループワーク「作成ソフトを用いたクリティカルパスの作成」が行われました。

参加者は8グループに分かれ作業を開始しました。どのグループも医師がリーダーシップを発揮し、実際の医療チームのように、初対面の者ばかりで編成されたグループと思えぬ、息のあった活発な意見交換でクリティカルパスを作成そして発表しました。皆で知恵を寄せ合う作成プロセスを通じて、クリティカルパスへの理解が深まったようです。第1日目は国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 野村一俊先生の講演「クリティカルパスの見直しのポイント」で締めくくられました。

第2日目は福井総合病院副院長 勝尾信一先生の講演「バリエーション分析とクリティカルパスの見直し」で始まり、昼食を挟んでグループワークを行いました。

各グループは肺炎治療クリティカルパス事例を用いてのバリエーション分析に取り組みました。クリティカルパス作成に比べ、分析プロセスでは試行錯誤の連続でした。しかしながら、前段の講義を思い起こしつつ、作業途中のタスクフォースの的確なアドバイスに助けられながら、最終的にはどのグループもクリティカルパスの改善点の抽出にたどり着きました。その後分析プロセスの発表と質疑応答がありました。参加者はバリエーション分析の重要性を認識し、その方法についても実践レベルで理解を得たようです。

参加者の皆さん本当にお疲れさまでした。

支部学術集会開催報告

第9回佐賀支部学術集会

学術集会会長：佐賀社会保険病院病院長 加藤 収



会場風景

日本医療マネジメント学会第9回佐賀支部学術集会を254名の参加のもと2010年2月6日(土)、佐賀市アバンセにおいて開催しました。「これからの医療連携」をメインテーマに32題の一般講演のあと特別講演

として米国グローバルヘルス財団理事長のアキよしかわ先生に「DPC環境下、日本の病院はどうなるのであろうか」という興味深い演題で日本の実証的なデータ分析に加え、諸外国の事例などを紹介され、日本の病院の今後について考察していただきました。さらに今回のテーマであるこれからの医療連携として「ICTネットワークを用いた佐賀県内の医療連携」と題してシンポジウムが行われました。行政、佐賀県医師会、中核医療機関等のもとに本システムの展開状況ならびに将来の展望に関して熱心な討議がなされました。最後まで皆さん講演、シンポジウムを熱心に聞き入っておられ大変いい学会であったと思っております。学会ご参加の皆様、協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。

第6回岡山県支部学術集会

学術集会会長：岡山市立市民病院院長 松本健五



会場風景

第6回岡山県支部学術集会は、岡山市立市民病院(松本健五院長)が担当で2010年2月20日に岡山国際交流センターにおいて開催しました。今年度から支部学術集会が年2回の開催となり、昨年10月3日に開催

された第5回学術集会からの期間が短かったにもかかわらず、一般演題14題、ポスター発表9題とクリティカルパス11題の発表をいただきましたことに大変感謝を致しております。

今回の支部学術集会のメインテーマは、「人間中心の医療—持続可能な医療マネジメント—」でした。近年、医療、特に救急医療の現場は極めて厳しい状況にあり、医療を受ける側の満足だけではなく、医療を提供する側にも働く誇りや満足感が得られることが重要であるとの認識からでした。その趣旨から、特別講演は岡山大学大学院医歯薬総合研究科救急医学講座の氏家良人教授にお願いし、「私の歩んだ救急医学—そしてこれから—」のタイトルでお話いただきました。

(次頁へ)